



# 河北潟と周辺案内図

河北潟水質浄化連絡協議会  
(金沢市・かほく市・津幡町・内灘町)



サンセットブリッジ内灘



風力発電



総合運動公園展望台から見た河北潟



河北潟野鳥観察舎



放牧場

牛・馬・ウサギなどが見られる  
【牛乳などの直売店あり】



菜の花



ひまわり村



ハスの花



ミズアオイ



太陽電池パネルを利用した  
水質浄化施設



桜並木



果樹園



アサザ  
ピオトープ



石川県津幡漕艇競技場

この辺は冬、コハクチョウが  
よく見られる所

至津幡駅

至木越

至金沢東IC

至高松IC

至羽咋

159

159

JR七尾線

河北潟周辺広域農道

能登有料道路

西部承水路

湖央通り

東部承水路

宇ノ気排水機場

津幡排水機場

金沢排水機場

東部揚水機場

内灘排水機場

内灘IC

白尾IC

至向粟崎

金沢医大病院

内灘マリーナ

清湖大橋

蚊爪大橋

湊野球場

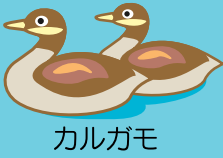
蓮湖渚公園

金沢港防潮水門

こなん水辺公園

馬事公苑

競馬場



カルガモ

湖央橋

才田橋

食肉流通センター

才田大橋

湖南大橋

東部承水路

承水路

湖北大橋

内日角橋

新開橋

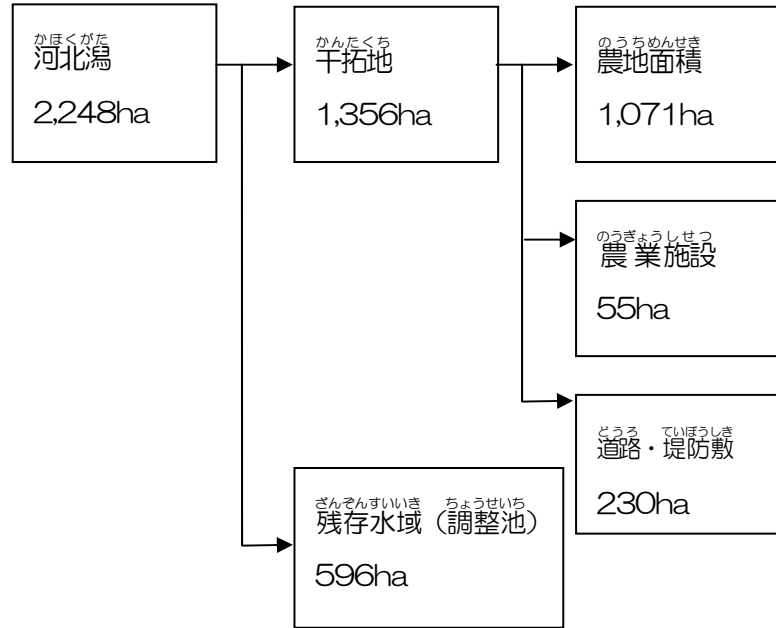
宇ノ気川

西田幾多郎哲学館

宇ノ気水辺公園

# かほくがたかんたく かいよう 河北潟干拓の概要

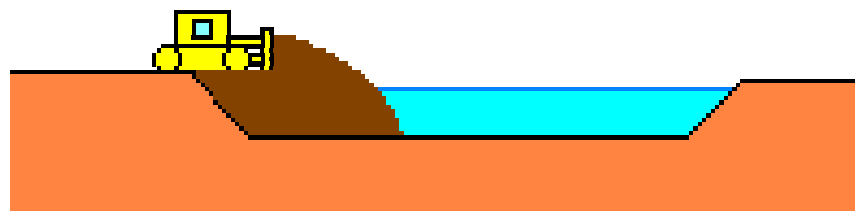
国営河北潟干拓事業として、昭和38年（1963年）に着手し、23年の歳月をかけて、昭和61年（1986年）に完了しました。



河北潟は、かつての約1/3の面積に縮小しました。

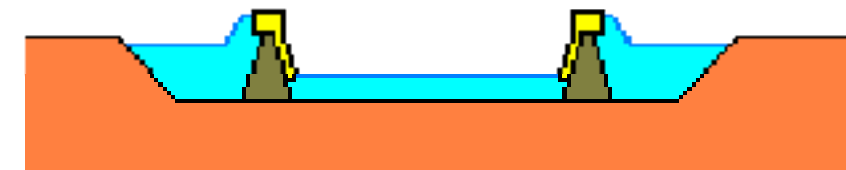
## まめちしき 豆知識 「埋め立て」と「干拓」の違いは？

埋め立てとは、土を運んできて水面を埋めて陸地化し有効な土地を造成します。



干拓とは、最初に堤防を築き、ポンプで中の水を排水し陸地化します。

## ポンプ



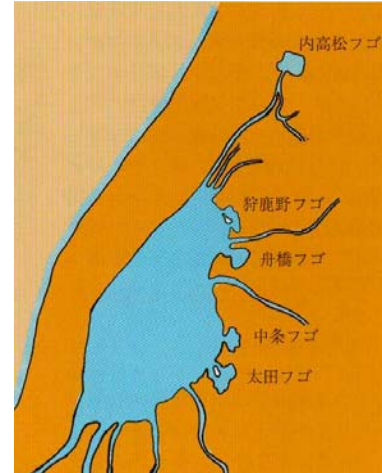
# かほくがた むかしの河北潟

（「河北潟将来構想」河北潟湖沼研究所生物委員会発行より一部抜粋し編集しています）

## かほくがた すいいきかんきょう 河北潟の水域環境

### フゴ

河北潟ができあがったときの面積は広大なものでした。それが、堆積によりだんだん小さくなっていきました。しかし、比較的深いところは陸化せずに、孤立した窪地として残されました。この窪地がフゴ（不湖）と呼ばれていました。フゴは、徐々に埋め立てられ開田されました。



### ふくざつ かこういき 複雑な河口域

河口に堆積した泥湿地のうえにはヨシが繁り、延々と続く草原が存在していました。河口部は流路が枝分かれして、複雑な湖岸が形成されていました。

### すいろ 水路

潟の縁にはもともと道はなく、移動は舟で行っていました。周辺の集落では家と家、家と田を結びイタコと呼ばれる小舟の通る水路（舟入川）が縦横に走っていました。

### しつでん 湿田

河北潟はだんだんと堆積が進み小さくなっていきました。堆積したあとを埋め立てたり小規模の干拓を繰り返して水田を広げていきましたが、もともと低い土地であるため、潟近くのほとんどの田は大雨が降ると冠水する湿田で、収穫はあまり良くありませんでした。

### すいせいしょくぶつ はんち むすべ 水生植物が繁茂する水辺

潟の水辺は水生植物が繁茂していました。舟で潟に出るときに誤って水草の茂っているところに入るとクロモなどの沈水植物や、ヒシ、アサザなどの浮葉植物が櫓にからみつき、前にも後ろにも進むことができず苦勞したそうです。

## かほくがた ひとびと く 河北潟と人々の暮らし

### こたい 古代

5千年前に内灘砂丘の伸長が進み、河北潟は海から次第に切り離されました。このころ、河北潟周辺に住む縄文人は潟や周辺の川から貝類を採集していました。かほく市にある上山田貝塚の出土品がこのことを示しています。また、金沢市梅田町で見つかった弥生時代の水田跡や森本丘陵に点在する

古墳群は、河北潟周辺の肥沃な地域が古くから人々に利用されてきたことを想像させます。

### えとじだい 江戸時代

河北潟周辺を含む加賀平野全般は加賀藩主の鷹狩りの地となっており、領民が野生生物を捕ることは固く禁じられていました。

河北潟周辺ではシカ、イノシシ、ニホンオオカミなどが自撃されており、大型ほ乳類は多く生息していたようです。また、河川や湖沼には「御止場」と呼ばれる魚類の繁殖保護地が設けられました。河北潟では、各村ごとに使用できる漁具・漁法が定められていました。

### めいじ しょうわしょき 明治から昭和初期

河北潟は、周辺で生活する漁民の重要な漁場でした。漁具・漁法に地域的特色があり、向葉崎の袋網や大根布の狩曳網など潟ではさまざまな光景が見られました。河北潟ではフナなどの淡水魚に加えてスズキ、ボラ、サユリ、シラウオ、ヤマトシジミなど汽水性の魚の漁獲もありました。女性たちはこの魚介類を金沢や、遠くは福光方面に売りに歩きました。

花園や才田などの集落では水田農業に力を入れていました。潟周辺の田んぼには水路が縦横に走り、舟は農作業には欠かせないものでした。



### かほくがた ふね ふなごや 河北潟の舟と舟小屋

河北潟で使われていた舟は平底の舟で、櫓や竿を使って操作しました。各家はヨシで屋根を葺いた独特の舟小屋をもっていました。家によっては何艘もの舟をもっていて、漁のときや稲を運ぶときだけでなく、日常の移動手段として使っていました。舟小屋は河北潟の湖岸に独自の風景を作っていました。



### かほくがた こ 河北潟と子どもたち

子どもたちにとっては河北潟が遊び場でした。5~6年生にもなると各家から舟を持ち出して潟に集まり、潟の深いところまで漕いでいきました。夏休みには、潟で泳いで遊びました。男の子たちはフナ釣りを楽しみ、泥の中にあるフナを手づかみで獲ることもできました。女の子たちは学校が終わると夕食のおかずにシジミ貝を採りにいきました。また、深いヨシ原をかき分けていき、ヨシキリやバンなどの巣をみつけ卵を採っていました。鳥もちを使って小鳥を獲ったりもしました。